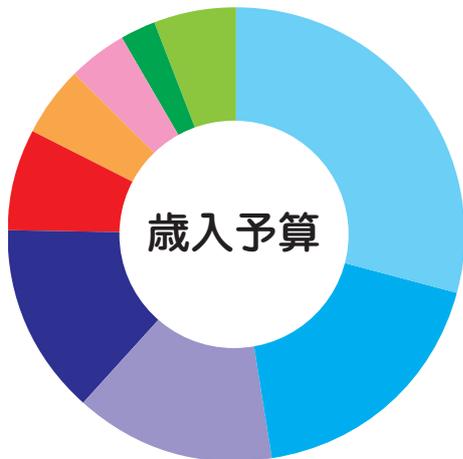
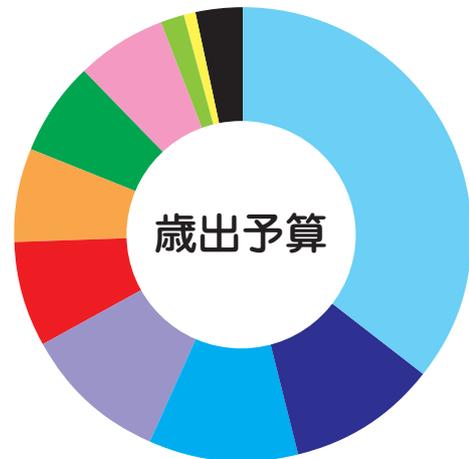


決まりました!!令和2年度予算 予算特別委員会で審査しました



歳入予算



歳出予算

市税	94億7,191万7千円	(29.4%)
地方交付税	59億円	(18.3%)
国庫支出金	46億999万8千円	(14.3%)
市債	43億3,400万円	(13.4%)
県支出金	23億9,379万2千円	(7.4%)
地方消費税交付金	15億9,186万4千円	(4.9%)
繰入金	13億2,752万5千円	(4.1%)
諸収入	7億8,189万5千円	(2.4%)
その他	18億5,900万9千円	(5.8%)

民生費	114億7,939万1千円	(35.6%)
公債費	34億695万8千円	(10.6%)
教育費	33億7,304万6千円	(10.5%)
総務費	33億6,082万円	(10.4%)
衛生費	24億179万2千円	(7.4%)
土木費	22億113万5千円	(6.8%)
消防費	21億1,257万2千円	(6.5%)
農林水産業費	20億4,018万4千円	(6.3%)
商工費	5億9,485万9千円	(1.8%)
議会費	2億8,633万7千円	(0.9%)
その他	10億1,290万6千円	(3.2%)

一般会計合計 322億7,000万円

第3章 健康・福祉

- 保育環境の充実
(保育環境のICT化など)
322,468千円
- きめ細かい妊娠・出産
・子育て期への支援強化
121,000千円

第2章 生活環境

- 防災力の充実・強化
(地域の停電対策支援など)
586,728千円
- 一般廃棄物処理
体制の構築
477,717千円

第1章 都市基盤

- 重点「道の駅」
整備の推進
864,518千円
- 利便性の高い
公共交通網の構築
248,732千円

今定期例会に、一般会計・特別会計・企業会計を合わせた、令和2年度予算が市長から提案されました。

はじめに、予算の主な使い道についてお知らせいたします。

重要事務事業2020 7分野と主な事業

第7章 自治体運営

- 行政サービスの改革推進
87,746千円
- 市役所本庁舎大規模改修の実施
465,757千円

第6章 地域づくり

- 生涯活躍のまち(笠間版CCRC)コミュニティモデル構築
109,021千円
- 地域づくり人材の確保
25,106千円

第5章 教育・文化

- 小・中学校(義務教育学校)教育環境の推進
・公民連携による
・スィミング授業の強化
・ICT教育環境整備など
1,105,059千円

第4章 産業

- かさまブランドの
販売力強化
30,249千円
- 事業承継支援の強化
(農業担い手育成支援など)
29,832千円



令和2年度会計別予算の状況 (千円)

会計名		予算額	会計名	予算額
一般会計		32,270,000	病院事業会計	940,335
特別会計	国民健康保険特別会計	7,700,000	水道事業会計	2,206,266
	後期高齢者医療特別会計	916,000	工業用水道事業会計	35,495
	介護保険特別会計	6,718,000	公共下水道事業特別会計	4,146,381
	介護サービス事業特別会計	24,800	合計	55,576,277
	農業集落排水事業特別会計	619,000	【参考】令和元年度当初予算 合計額	53,923,925

予算特別委員会における審査の経過

議会は予算特別委員会を設置し、3月6日～8日に審査を行いました。審査の過程での主な質疑、答弁および意見内容について紹介します。

問 令和2年度の笠岡中学校の水泳授業を、試験的にスイミングスクールに委託することに至るにはどんな経緯があったのか。【議案第25号】(学務課所管)

答 市内小中学校のプールでは老朽化したプールが多数あり、維持するには経費がかかる。その経費を削減する為、民間委託を検討する必要があるため、来年度は笠岡中学校をモデル校として検証し、市全体で経費を削減する方策として考えた。今後、市内全域に適用できるか検討していく。

問 介護検診ネットワークシステムの改善案や今後の考え方は。【議案第25号】(高齢福祉課所管)

答 ICT化での情報共有がされており、居宅介護支援事業所のケアマネージャーが認定結果を取り込みケアプランを作成できる利便性や、利用者が救急搬送された場合に救急隊員が情報を共有できると言った活用がされている。今後は在宅医療との連携が重要になり、医師と介護の連携が課題となっている。

問 スマートシティコンソーシアムの公共交通対策について令和2年度の対策は。【議案第25号】(企画政策課所管)

答 交通分野を中心に進めていきたい。すでに調査を開始しており、令和2年度は観光を主として、どのように来訪者を市内周遊に結び付けるかについてを視点として置きながら、自転車も含めた実証実験まで進めて行きたい。併せて、公共交通全体の再編についてもスマートシティコンソーシアムの中で、中央大学に協力を求めながら検討していきたい。

問 財政調整基金積立と一般会計繰り出しを行う理由は。【議案第26号】(水道課所管)

答 積立は剰余金を積み立てるもの。繰り出しは平成24年度から平成28年度までに税緩和のため約2億8500万円を一般会計から法定外繰り入れをしたが、返還できていなかった1500万円を一般会計へ繰り出すもの。

問 重点「道の駅」の実施内容は。また、道の駅を2次交通拠点としたMaas(サービスによる交通手段)の方向性や官民連携の考えは。【議案第25号】(道の駅整備推進課所管)

答 重点「道の駅」は、国土交通省が地域創生の核となる道の駅の優れた企画を選定し、国の支援を受けることができる制度で、選定された笠岡の道の駅は主に4つの企画を提案している。その他にも国の指針を受けて防災機能を整備することもあり、当初予定から増設する施設があるが、国や県から交付を受けることで市の費用負担を軽減できる。2次交通拠点としたMaasの考え方や官民連携は企画提案内容の1つであるが、現在は手掛けたばかりの段階。スマートシティの考えも含めて取り組みを進めようとしている。

問 スケートパーク場整備はどのように進めているのか。管理棟で食料や物販販売を行う考えはあるか。【議案第15号】(都市計画課所管)

答 笠岡芸術の森公園内の約4500㎡の土地に、手すりや階段などを模した物が設置されるストリートエリア、地盤面からお椀をくり抜いたような掘り込みがあるパークエリア、芝生広場、屋根付きのエリアを整備する。かなり大きなエリアを有しており、競技者に対する訴求力を出すような設計をすることで、国内大会や世界規模の大会までも開けるようなグレードのスケートパークを計画している。管理棟には物販販売を行えるようにし、食事については検討中である。

3日間にわたり執行部との間で活発な質疑応答が交わされ、最終日に討論、採決を行い、すべての会計を原案のとおり可決しました。

定例会最終日(3月18日)の本会議で、石松委員長が審査結果を報告し、採決の結果、令和2年度の全ての予算を可決しました。

【予算特別委員会 委員】

委員長	石松俊雄
副委員長	内桶克之
委員	田村幸子
委員	益子康子
委員	中野英一
委員	田村泰一
委員	石井栄二
委員	畑岡洋安
委員	石田